

平成18年度動物由来感染症サーベイランス結果報告

大阪府では、動物由来感染症の発生を防止し、又はまん延を防止するため、環境農林水産部と健康福祉部が一体となって動物由来感染症の積極的な検査(サーベイランス)を実施しています。検査の結果は、下記のとおりです。

平成19年3月31日現在

感 染 症 名	対象動物	検体	平成18年度 計		
			検体数	陽性	陰性
腸管出血性大腸菌	牛・めん山羊	糞便(農家)	586頭		586頭
	牛	枝肉(食肉処理場)	350検体		350検体
ウエストナイルウイルス感染	蚊	蚊(馬飼育施設)	352匹		352匹
		蚊(保健所)	3,533匹		3,533匹
	野鳥	脳	11羽		11羽
オウム病	鳥類	糞便	333羽	8羽 ※1	325羽
高病原性鳥インフルエンザ	鶏・アヒル	気管・クロアカスワブ	1,530羽		1,530羽
		血清	1,510羽		1,510羽
	野鳥	糞便	50ヶ所		50ヶ所
	豚	鼻腔スワブ	240頭		240頭
		肺	13頭		13頭
デング熱	蚊		3,533匹		3,533匹
日本脳炎	豚	血清	200頭		200頭
	蚊		3,533匹		3,533匹
ブルセラ症	牛	血清	1,381頭		1,381頭
つつが虫病	野ネズミ	ツツガムシ	503匹		503匹
レプトスピラ症	アライグマ	尿	260頭	49頭 ※2	211頭
エキノкокクス症	犬	糞便	70頭		70頭
クリプトスポリジウム	牛	糞便	125頭		125頭
B S E	牛	延髄(食肉処理場)	27,341頭		27,341頭
		延髄(死亡牛)	113頭		113頭
トキソプラズマ症	豚	血清	434頭	6頭 ※3	428頭
アライグマ回虫症	アライグマ	糞便	146頭		146頭

※1 オウム病陽性の8羽については現在治療中です。

※2 レプトスピラ症陽性については、特に過敏になる必要はありませんが、一般的な感染症予防の観点からも野生動物と接する際には素手で触れず、また取り扱った後は手指を十分に洗浄、消毒して下さい。

※3 トキソプラズマ症陽性については、臨床症状はなく異常はありませんが、養豚農家の皆さんはより一層の衛生対策の実施をお願いします。